

10月29日(土)

8:30~10:10 **IVUS/OCT/OFDIを極める**



コーディネーター  
船津 篤史  
京都桂病院

座長  
寺本 智彦 さくら総合病院  
船津 篤史 京都桂病院

**IVUS、OCT/OFDIのいろは(基礎的な内容)**  
(各デバイスの原理、基本画像と病理所見との対比)  
藤井 健一 関西医科大学

**IVUS、OCT/OFDIを見比べる(臨床使用的な内容)**  
(各社IVUS並びにOCTとOFDIの使用上の相違点、  
同一病変におけるIVUSとOCT/OFDIの画像の比較)  
野崎 洋一 北光記念病院

現在、多くの症例で血管内イメージングデバイスを使用したPCIが行われています。しかし、得られた画像所見を十分に理解し、治療に活用できているでしょうか？  
本セッションではIVUS/OCT/OFDIの基礎から治療への応用について、エキスパートの先生方にご講演頂きます。PCI初心者は血管内イメージングの知識を深めることができ、中・上級者は今ある知識をさらにブラッシュアップすることができます。血管内イメージングを十分に活用した質の高いPCIを目指しましょう。

**IVUSを活用したPCI(IVUSが向いている病変  
(こういう時にIVUS選ぶ)、デバルキングへの活用、  
ステント留置法など)**  
坂倉 建一 自治医科大学附属さいたま医療センター

**OCT/OFDIを活用したPCI  
(OCT/OFDIが向いている病変(こういう時にOCT選ぶ)、  
デバルキングへの活用、ステント留置法など)**  
栗山 根廣 宮崎市医師会病院

14:00~16:00 **石灰化病変を克服する**



コーディネーター  
石橋 堅  
あかね会士谷総合病院

座長  
池本 智一 熊本赤十字病院  
石橋 堅 あかね会士谷総合病院

**石灰化病変を見る～IVUS/OCTを使いこなす～**  
園田 信成 佐賀大学医学部附属病院

**石灰化病変への武器  
～ローテーションアテレクトミーの基本～**  
池田俊太郎 愛媛大学

**石灰化病変への武器  
～オービタルアテレクトミーの基本～**  
片山 祐介 国立病院機構 岩国医療センター

**病理からみた石灰化病変～石灰化結節を中心に～**  
大塚 文之 国立循環器病研究センター

**回転性粥腫切除術による穿孔**  
明石晋太郎 浜田医療センター

**回転性粥腫切除術のスタック**  
渡部 友視 鳥取大学医学部

Complex Cardiovascular Therapeutics 2022

**CCT 2022**

会 期 2022年10月27日(木)～29日(土)

会 場 Room 4

開催形式 ハイブリッド開催(会場開催+Web配信)

**Fellow Course**



# Fellow CCT2022 Course

10月27日(木)

8:30~10:30 分岐部



コーディネーター  
加藤 大雅  
福井県立病院

座長  
加藤 大雅 福井県立病院  
保坂 文駿 岡村記念病院

分岐部病変に対するPCIのエビデンスおよび最近の潮流

夏秋 政浩 佐賀大学医学部

分岐部病変における側枝閉塞をどう予測するのか

坂田 憲治 金沢大学

Jailed Balloon/Corsair Techniqueのすべて

沼澤 洋平 足利赤十字病院

Kissing Balloon Techniqueのすべて

児玉 隆秀 虎の門病院

分岐部病変はPCI治療の約20%を占めており、日常臨床で最も多く遭遇する複雑病変のひとつです。つまり、独り立ち間もない若手術者においても、緊急時に対応を迫られることは少なくありません。分岐部病変に対する様々な治療手段が考案され、検証されてきていますが、いまだ非分岐部病変に比してその手技は煩雑であるのみならず、短期および長期治療成績は及ばないというのが現状です。よって、各施設によってそれぞれお作法が決まっており、若手術者はそれに倣って治療を行っている事が多いのではないのでしょうか。本セッションでは第一線でご活躍されている経験豊富な先生方に、各テーマに沿ってご自身の経験も含め分岐部治療におけるチップスやロジックをお話しいただきます。これから分岐部PCIを始められる若手の先生のみならず、治療に対する理解をさらに深めていきたいとお考えの中堅の先生方にとりましても、有用なセッションになるものと考えております。ぜひたくさんの先生方にご参加いただき、分岐部PCIを共に学びましょう。

Double stentingが必要な病変およびその方法

樋上 裕起 大津赤十字病院

分岐部病変におけるDebulking治療

唐原 悟 東京曳舟病院

分岐部病変特有の合併症およびその対処法

吉田 路加 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院

10:30~12:30 合併症



コーディネーター  
新関 武史  
公立置賜総合病院

座長  
高橋 徹 秋田県立循環器・脳脊髄センター  
新関 武史 公立置賜総合病院

造影剤アレルギー  
(アナフィラキシーショックを含む)、HITなどの凝固関連合併症

加納 誠士 豊橋ハートセンター

デバイススタック  
(GW、Balloon、IVUSなど)、ステント脱落

吉田 雅言 岡山大学

Rotablator・Diamondbackによる合併症

滝澤 要 JCHO仙台病院

DCAの合併症

武田 吉弘 郡山青藍病院

冠動脈穿孔、冠動脈解離

藤本 善英 国際医療福祉大学成田病院

CTO PCIの合併症、対策

山田寿太郎 山口県済生会下関総合病院

10月28日(金)

8:30~10:30 CTO



コーディネーター  
長谷川勝之  
東宝塚さとう病院

座長  
岡田 正治 淡海医療センター  
長谷川勝之 東宝塚さとう病院

CTO-PCIの目的と適応

海老澤聡一郎 信州大学

CTO-PCI 必要な術前検査と、ストラテジー構築の仕方

樋上 裕起 大津赤十字病院

アンテグレードアプローチでのワイヤー選択・操作法

栗田 泰郎 三重大学

レトログレードアプローチへの移行タイミングは

寺村 真範 一宮西病院

かつてCTO-PCIが「匠のみが成し得る神業」であった時代、CTOのライブ治療において聴衆は術者の一挙手一投足に固唾を飲んで見入ったものでした。やがて、デバイスの進歩やテクニックの普及とともにCTO-PCIの成功率は向上し、CTO病変は一定以上の経験を有するオペレータが対峙すべき対象へと時代は変わりました。他方、今なおCTO病変は複雑病変の代表格と言える治療対象であり、「なんとなく」や「行き当たりばったり」が通用しない手強い相手であります。本セッションでは、これから本格的にCTO-PCIを始めよう、という心意気のある若手の先生方に向けて、CTO病変に立ち向かうためにこれだけはおさえておきたいエッセンス、最大公約数となるべき知識や技術をお届けできるよう企画させて頂きました。CTO-PCIに対する理解をさらに深めていきたいとお考えの中堅の先生方やコメディカルの方々にとりましても有用なセッションになるものと考えております。たくさんの方々の参加をお待ちしています。

コラテラルチャンネルの選択とその通過方法

永井 宏幸 近畿大学奈良病院

Reverse CART法の基礎(一般的な症例)

船田 竜一 北関東循環器病院

Reverse CART法の応用(特殊な症例)

良永 真隆 藤田医科大学

CTO-PCI の合併症 その予防と対処法

藤田 雅樹 江戸川病院

10:30~12:30 Physiology



コーディネーター  
蔵満 昭一  
小倉記念病院

座長  
蔵満 昭一 小倉記念病院  
田中 信大 東京医科大学八王子医療センター

FFRとNHPRの不一致症例を理解しよう!

寺井 英伸 心臓血管センター金沢循環器病院

PhysiologyでPCIを最適化しよう!

川瀬世史明 岐阜ハートセンター

微小循環障害って何?

村井 典史 横須賀共済病院

FFRとNHPRは、冠動脈病変の虚血評価だけでなく、治療戦略や治療効果判定など幅広く活用されるようになり、今やPCIに欠かせないものになっています。最近では、微小循環障害が注目され、またAngiographyやIVUS/OCTの所見に基づいたFFRが登場するなど、Coronary Physiologyはまさに日進月歩の発展を見せています。しかし、その一方で、Coronary Physiologyの知識を整理することが難しくなっているのも事実かと思います。本セッションでは、エキスパートの先生方にphysiology-guided PCIの活用法から最新トピックスまでお話いただき、明日からの実臨床ですぐ役立つプログラムを企画しました。若手の先生方だけではなく、Coronary Physiologyを勉強したい皆様に、是非ご参加いただければ幸いです。一緒にCoronary Physiologyを勉強しましょう。

微小循環障害をどうやって診断し、治療するの?

割澤 高行 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院

IVUSとOCTからFFRを出せる!?

清家 史靖 愛媛大学

Angio-derived FFRの現在と未来

塩野 泰紹 和歌山県立医科大学